

テクニカルエンジニア（情報セキュリティ）創設

○はじめに：情報処理技術者試験で、この度、テクニカルエンジニア（情報セキュリティ）が新たな試験区分として追加されるという運びとなりました。現在仮称とのことですが、ほぼこのまま確定しそうな感じにじっくりした名前ですね。http://www.jitec.jp/1_00topic/topic_20050524_IPAX2005report(1-1).pdfによります内容を以下に掲げていきます。

○対象者：① 既存のシステムを組み合わせ、適切なセキュリティ機能を提供する情報システムを開発する者、又は支援する者

② セキュリティ機能を組み込んだ業務アプリケーションの開発を支援する者

○変更時期：来年、平成18年春期試験より開始。

○情報セキュリティアドミニストレータ（以下SSと略記）との違い：

そうです、そもそもセキュリティへのニーズ、その重要性の高まりから最近創設されているSSがあるというのに、なぜこんな資格が追加されるのでしょうか。

「テクニカルエンジニア（情報セキュリティ）試験（以下TSと略記）の新設に伴い、情報セキュリティ関連業務を開発側と利用側に分け、それぞれをTSとSSが分担することを明確にする。

TS：情報システムの開発側にあつて、主として情報セキュリティシステム的设计・開発を業務とする。

SS：情報システムの利用側にあつて、主として情報セキュリティ環境の確保を業務とする。

SSは情報セキュリティポリシーの作成・管理・運用を通じて、TSの業務への指針を与える。運用業務は、TSの技術的支援を受けながら、SSがシステム管理エンジニアと連携して実施する。」

とあります。つまり、これまでのSSは利用者、開発者の両方を一応網羅していたのですが、今後は利用者向けに特化します。そして開発者としてセキュリティにかかわる人向けにTSが特化するということです。今までSS受けてきて範囲広くて難しかった人にとっては、自分の範囲に合う試験区分を選択できるようになりました。よかったです。

○試験形式：午前 100分 55問 多肢選択式（四肢択一）。(他テクニカルエンジニア試験と同様)

午後Ⅰ 90分 4問中3問選択 記述式。(他テクニカルエンジニア試験と同様)

午後Ⅱ 120分 2問中1問選択 論述式（事例解析）。(ネットワークやDB、エンベデッド試験と同様)

この試験パターンは要はテクニカルエンジニアのネットワーク、DBと同等レベルです。つまりSSよりも難しい区分けとなります。ただ、逆にSSが簡単かということ、技術的問題が減るのでより利用者側に突っ込んだ問題になるので、一概に簡単になるということでもないでしょう。

○出題範囲：「ネットワーク技術」に関してテクニカルエンジニア（ネットワーク）と同様（要は最も難しい）の技術レベル、また、「セキュリティと標準化」に関してもSSと同様（だからこれも当然最も難しい）の技術レベルとなり、それぞれ重点分野とされています。また、なにげにネットワークやSSでは全く範疇にない「データベース技術」についても重要度は中で、技術レベルも中ですが、出題されることになっています。こうなるとやっぱり範囲いろいろ広いやん、となりますが、SSにあつてTSにないものがあります。それは、「情報化と経営」、「監査」です。

○おわりに：この試験に挑戦するなら秋期試験で当然SSを受験しましょう。分かれたといつてもともに情報セキュリティ分野です、重なる範囲も広いですから勉強しておいたことが無駄になることはありません。

秋期試験は10/16。受付は7/11～8/15(インターネットなら8/23迄)です。

参考：情報処理技術者試験センターHP (<http://www.jitec.jp/>)

おわり

20050527



Maki Rouel